

胸部大動脈瘤破裂

洛和会音羽病院



心臓血管外科部長
福本 淳 氏

状がほとんど現れず、胸部の痛みや食べ物が飲み込みにくい、声がかすめるなどの症状が出たときには命に関わる状態です。動脈瘤はCT（コンピュータ断層撮影）やエコー検査でたまたま見つかることが多く、通常の健診ではほとんど見つかりません。病院にたどり着く前に亡くなる方が多く、たどり着いた場合で

や若年者の方にも心臓、大動脈に特化した健診を受けていただきたいです。
治療法は、破裂前に大動脈瘤が見つかれば、以前は開胸手術を行っていました。現在はステントグラフト（人工血管）術という、低侵襲な治療法が主流になってきています。カテーテルを挿入し、患部にステ

瘤は切除せずに残しますが、血流がなくなるので次第に小さくなります。手術時間も1〜2時間程度で、術後4〜7日で退院できます。

Q 胸部大動脈瘤とは、
A 突然死の原因の多くは虚血性心疾患や大動脈瘤などの循環器の病気です。大動脈瘤は高血圧や動脈硬化により血管が膨らむ病気です。胸部大動脈瘤が破裂すると、胸部に激痛が走り、ショック状態へ陥ります。胸部動脈瘤は症状

Q 早期発見、予防について。
A 動脈瘤ができる原因は動脈硬化です。高血圧や脂質異常症、喫煙や運動不足など、リスクとなる因子を少しでも減らすことが重要です。また、心臓、大動脈に特化した健診での早期発見が大切です。術後は年に1回の定期健診を受け、ステントグラフトや血管などの経過観察が必要です。

症状が出れば命に関わる状態

Q 胸部大動脈瘤とは、
A 突然死の原因の多くは虚血性心疾患や大動脈瘤などの循環器の病気です。大動脈瘤は高血圧や動脈硬化により血管が膨らむ病気です。胸部

大動脈瘤が破裂すると、胸部に激痛が走り、ショック状態へ陥ります。胸部動脈瘤は症

も緊急手術では救命できないケースもあります。高齢者に限らず、運転を仕事とする方

も緊急手術では救命できないケースもあります。高齢者に限らず、運転を仕事とする方

の早期発見が大切です。術後は年に1回の定期健診を受け、ステントグラフトや血管などの経過観察が必要です。